

# 各種学校の現状

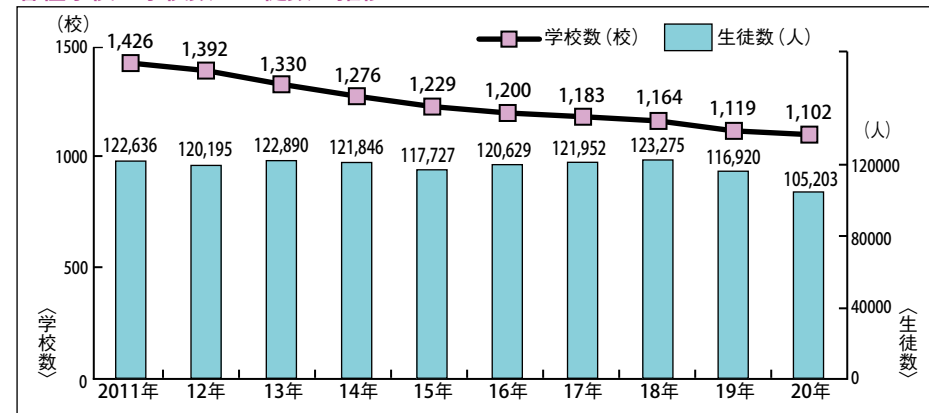
## ■ 私立 1,096 校に約 10 万 5 千人が学ぶ

学校数は 1,102 校。国立はなく公立が 6 校あるが、各種学校在籍者の 99.5% を 1,096 校の私立が担っている。

2020 年度の生徒数は 105,203 人。少子化がさほど影響しない各種学校の生徒数は 12 万前後で増減を繰り返してきたが、今年度は前年より 11,717 人減（10.0 ポイント）と、この 10 年では最大の落ち込みになった。突然の変化と言えることから、「文化・教養」に含まれる「日本語学校」の入学者がコロナ禍により減少したことや、外出自粛も影響していると考えられる。入学者数も 47,468 人から 37,303 人に減少した。

学科数は 1,687 学科で、在籍者数を分野別に見ると、最も多いのが予備校や自動車学校、外国人学校などを含む「その他」で 77,449 人。構成比は 73.6% で 7 割を超えている。次いで「文化・教養」が 14,405 人で、「その他」と合計すると 91,854 人、率にして 87.3% となり 9 割に迫っている。

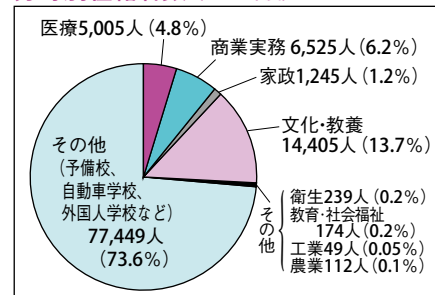
各種学校の学校数・生徒数の推移



各種学校の学校数・生徒数等 (2020年度)

	国立	公立	私立	計
学校数	0	6	1,096	1,102
	-	0.5%	99.5%	100%
学科数	0	13	1,674	1,687
	-	0.8%	99.2%	100%
生徒数	0	499	104,704	105,203
	-	0.5%	99.5%	100%
入学者数	0	347	36,956	37,303
	-	0.9%	99.1%	100%

分野別在籍者数 (2020年度)



## 第Ⅱ部

# 専修学校関連データ集 【東京都編】

[資料] 東京都学校基本調査

# 都内の高校生の進路状況

都内の高校生の進路状況

## ■ 高等教育機関の進学率は約 79%

2020年3月に東京都内の高等学校および中等教育学校を卒業した者は101,281人。専門学校、大学、短期大学の高等教育機関の進学者数は79,832人で、進学率は78.8%である。数字上はコロナ禍の影響も見られず前年から2.1ポイントの増で、この10年では最大の伸び率を示した。また全国平均72.2%と比較すると東京都が6.6ポイント上回っている。これに伴い、大学が1.5ポイント、専門学校が0.6ポイント、短期大学が0.1ポイントいずれも上昇した。大学と専門学校は2年連続の増加である。なお全国平均と比較すると大学(51.1%)が13.6ポイント高く、専門学校(16.8%)が4.6ポイント低い。東京の大学進学志向の高さが数値でも裏付けられている。

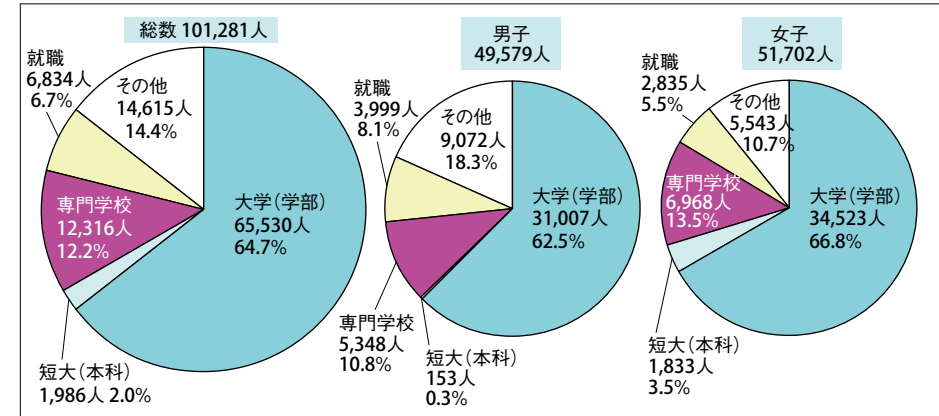
男女別では、男子の大学進学率が62.5%、女子が66.8%。例年女子のほうが高いが、その差はここ数年じわじわと縮まっている。今年度も前年同比の5.9ポイント差から4.3ポイント差に縮小した。専門学校は男子10.8%、女子13.5%で男女とも前年より上昇した。また進学率と同様、就職率も伸び、男子は0.3ポイント、女子は0.7ポイント増加した。唯一前年比マイナスとなったのは「その他」で、特に男子は3.5ポイント減少して4年ぶりに2割を切った。ここ数年、男子の「その他」の2割超えが続いていたのは、私立大学の定員厳格化や大学入試改革などによる浪人の増加も一因と見られていたが、今年度、進路を確定した者が増えた背景には、意識の変化をもたらしたという点で、やはりコロナ禍の影響が感じられる。

## ■ 普通科の進学率が8割を超える

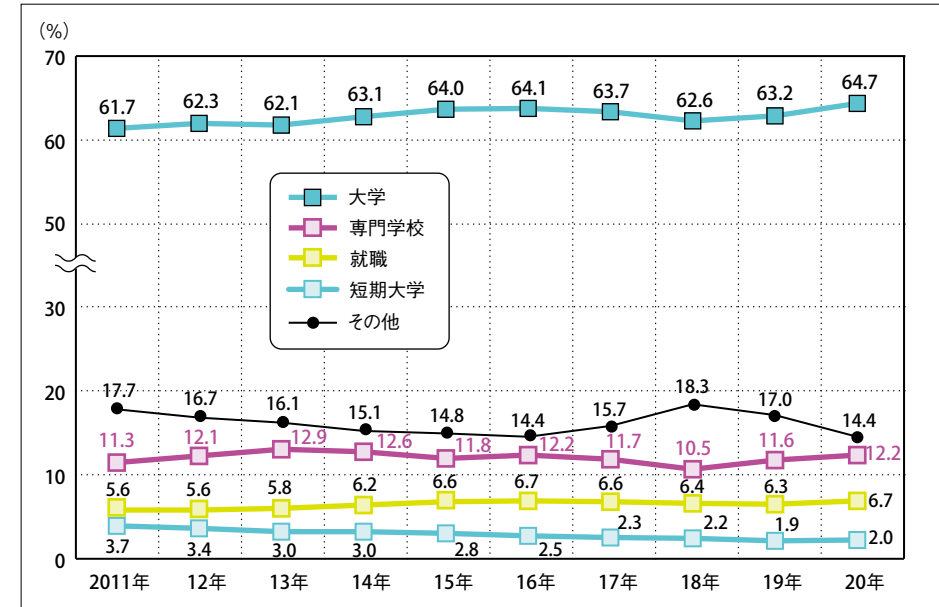
高等学校および中等教育学校新卒者の出身学科別に進路状況を見ると、進学率が最も高いのは普通科の82.0%で、ついに8割を上回った。以下、総合学科70.7%、商業科50.1%、通信制43.5%、工業科41.9%の順である。

専門学校の進学率に限ると最も高いのは通信制の27.1%。続く総合学科は25.0%で、ちょうど4人に1人が専門学校に進学している。2割を超えているのは通信制、総合学科、商業科の3つである。大学は普通科が69.3%と最も多く、前年から1.8ポイント上昇して7割に迫っている。

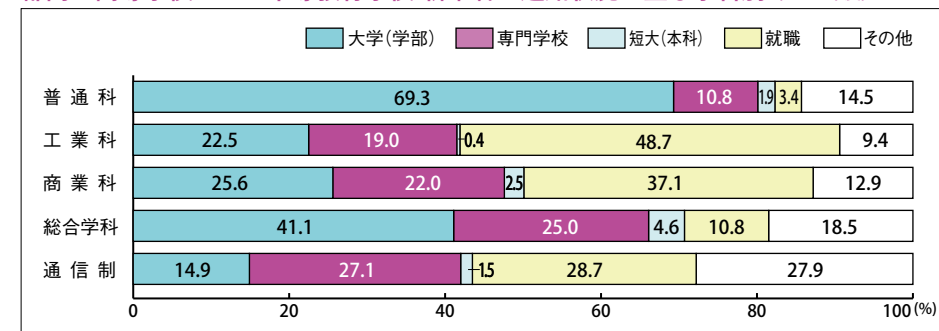
都内の高等学校および中等教育学校 新卒者の男女別進路状況 (2020年度)



都内の高等学校および中等教育学校 新卒者の進路状況の推移



都内の高等学校および中等教育学校 新卒者の進路状況・主な学科別 (2020年度)



# 都内専修学校の現状(区市別)

都内専修学校の現状(区市別)

## ■ 都内専修学校生は8年連続の増加

東京都内には、全国の専修学校（専門課程・高等課程・一般課程）3,115校の13.0%にあたる404校が設置されている。2020年度の在籍者数は149,579人で、8年連続して増加した。これは全国の専修学校生661,174人の22.6%にあたる。

右表は、2020年現在における東京の専修学校の主要データを地域別に表記したもので、23区内に都内全体の85.4%にあたる345校が開校していることがわかる。その在籍者数は128,569人で都内全在籍者の86.0%を占めている。特に渋谷区、新宿区、豊島区、千代田区といった山手線内または沿線の都心部に、学校数、在籍者数とも集中している。この4区を合わせた162校の専修学校には、都内全体の半数近い73,478人（49.1%）が在籍しており、各区の在籍者数だけでも、埼玉、千葉、神奈川などの首都圏や地方の大都市に匹敵する。今年度は渋谷区と豊島区が前年より増加し、千代田区と新宿区が減少したが、4区の合計では313人のプラスになった。

23区以外では、学校数では八王子市と立川市の9校が最も多く、町田市の8校、武蔵野市の6校、三鷹市・小金井市・国分寺市・多摩市の3校と続く。在籍者数の順では、八王子市（7,678人）、町田市（3,026人）、立川市（2,640人）、小金井市（2,105人）、武蔵野市（2,060人）の5位までが千人規模だ。

## ■ 入学者数は約7万7千人

2020年度の入学者数は76,838人で4年ぶりに反転したが、実数では1,050人減、率にして1.3ポイントの微減に過ぎない。専修学校のない5地域を除く44地域中で前年より増加したのは18地域、減少したのは23地域で、増減ゼロが3地域である。増加した実数の多い順では、文京区576人増、大田区253人増、清瀬市120人増、墨田区112人増となり、4地域で100人以上増えている。

本務教員と兼務教員を合計した教員数は24,556人。前年から105人増加した。内訳では本務教員が反転して91人の減少、兼務教員が196人の増加と対照的な結果となった。本務教員の数はこのところわずかな増減を繰り返す形で推移しているが、兼務教員がこの3年、200人前後で増加しているのは、職業実践専門課程が浸透してきたことも影響しているのかもしれない。

都内の専修学校数・在籍者数・入学者数・教員数(2020年度)

	学校数(校)	在籍者数	前年増減	入学者数	前年増減	本務教員数	兼務教員数
千代田区	29	12,371	-115	8,015	-116	653	1,427
中央区	6	757	-48	393	-35	56	116
港区	7	1,226	-630	678	-319	83	305
新宿区	54	24,617	-26	12,285	-449	1,170	2,326
文京区	16	6,480	897	3,619	576	293	760
台東区	8	2,749	17	1,505	-20	141	240
墨田区	9	2,254	21	1,110	112	156	113
江東区	6	1,147	-269	498	-80	63	127
品川区	9	1,117	30	465	-11	91	274
目黒区	3	635	-89	286	-26	38	105
大田区	13	8,942	55	4,098	253	280	1,070
世田谷区	14	2,505	36	1,140	-56	204	315
渋谷区	40	17,904	331	9,062	-133	934	1,589
中野区	19	5,240	111	2,707	14	273	473
杉並区	14	3,134	-24	1,547	-44	149	403
豊島区	39	18,586	123	10,693	-383	760	1,836
北区	6	2,698	35	1,374	20	148	246
荒川区	9	1,684	-115	621	-57	122	640
板橋区	13	2,666	-23	1,028	-51	180	611
練馬区	3	921	-22	460	53	31	72
足立区	4	598	38	274	7	46	101
葛飾区	5	1,423	-63	639	-34	64	171
江戸川区	19	8,915	322	3,965	-63	332	1,178
八王子市	9	7,678	348	3,425	7	311	661
立川市	9	2,640	-40	1,740	-141	118	194
武蔵野市	6	2,060	83	1,027	45	121	79
三鷹市	3	140	-171	68	-39	20	26
青梅市	2	528	170	194	-9	40	97
府中市	2	347	5	133	3	24	100
昭島市	1	214	3	78	7	8	53
調布市	0	0	0	0	0	0	0
町田市	8	3,026	-40	1,756	-154	146	213
小金井市	3	2,105	60	872	-126	99	301
小平市	1	24	-25	0	0	4	8
日野市	1	137	14	64	19	10	126
東村山市	1	33	0	20	7	7	68
国分寺市	3	733	30	394	67	49	27
国立市	1	126	17	62	9	12	30
福生市	1	61	26	37	2	4	2
狛江市	1	154	13	52	6	11	140
東大和市	1	364	-2	120	0	24	111
清瀬市	1	120	120	120	120	14	260
東久留米市	0	0	0	0	0	0	0
武蔵村山市	0	0	0	0	0	0	0
多摩市	3	455	-9	185	-24	36	146
稲城市	1	65	-9	29	-7	7	84
羽村市	0	0	0	0	0	0	0
あきるの市	1	0	0	0	0	0	0
西東京市	0	0	0	0	0	0	0
計	404	149,579	1,185	76,838	-1,050	7,332	17,224

(注)学校の設置されていない郡部と島部を除く。

# 都内専修学校の現状(学科系統別)

都内専修学校の現状(学科系統別)

## 工業関係の「その他」の在籍者数が全系統中トップに

右表は、都内の専修学校（専門課程、高等課程、一般課程）が開設する学科8関係58系統について、その延べ学校数、在籍者数、入学者数を記したものである。なお学校によっては複数の分野にまたがって学科を設けるケースがあるため、学校数は、実際の設置校数（404校）よりも多く表記されている。

学科系統別の学校数は680校。最も多いのは文化・教養関係の175校で、以下、医療関係131校、衛生関係111校と続き、この3関係が3ケタを超えている。特に文化・教養関係は全体の25.7%を占め、東京の4校に1校強が文化・教養関係となる。

在籍者数も文化・教養関係が50,858人と圧倒的で、今年度は414人微減したが、全体の構成比は依然として3割（34.0%）を越えている。在籍者数が前年より増加したのは工業、農業、衛生、商業実務、服飾・家政の5関係で、なかでも工業関係の1,166人増は3年連続の1千人超えである。内訳では好調が続く「その他」の547人増より「情報処理」の712人増が多いが、「その他」の総数9,973人は、これまで長く全58系統の最多に位置してきた衛生関係の「美容」9,730人を上回った。

系統別で工業の「その他」、衛生の「美容」に続くのは、「デザイン」の8,051人、「外国語」の7,243人、「音楽」の7,203人と文化・教養関係が強い。他に昨年3番手につけた「受験・補習」（6,729人）が1,066人減と最大の落ち込みを示す一方、服飾・家政関係の「和洋裁」（7,087人）が490人増えて順位が逆転したのが今年度の目立った傾向である。

## 4関係で入学者数が増加。最多は「情報処理」

入学者の総数76,838人のうち、関係別では工業、農業、医療、服飾・家政の4関係の昨対が増加し、衛生、教育・社会福祉、商業実務、文化・教養が減少。関係別の最多在籍者数は文化教養の29,611人だが、今年度は3万人を割ったのに対し、2位の工業は1万2千人台が目前だ。系統別で入学者の増加数が最も多かったのは工業関係の「情報処理」で327人増。衛生関係の「その他」が221人増、文化・教養関係の「音楽」が190人増と続く。

都内の専修学校の学科系統別学校数・在籍者数・入学者数・卒業者数(2020年度)

学科系統	学校数(校)	前年増減	在籍者数(人)	前年増減	入学者数(人)	前年増減	卒業者数(人)	前年増減
測量	1	0	97	5	97	16	81	-10
土木・建築	12	0	4,696	98	2,299	-33	1,744	4
電気・電子	6	0	931	25	501	25	397	-61
無線・通信	1	0	197	-15	99	-12	96	3
自動車整備	7	0	2,641	-186	1,205	-108	1,189	-20
機械	2	0	209	3	101	-5	86	-15
電子計算機	2	0	31	-23	11	0	24	7
情報処理	14	0	5,403	712	2,806	327	1,672	123
その他	15	1	9,973	547	4,078	69	2,746	378
工業関係計	60	1	24,178	1,166	11,197	279	8,035	409
農業関係その他	1	0	357	28	138	23	90	-29
農業関係計	1	0	357	28	138	23	90	-29
看護	34	0	6,608	-47	2,246	34	2,048	53
准看護	7	-1	527	-63	265	2	295	-3
歯科衛生	16	-1	3,145	91	1,199	101	937	-72
歯科技工	3	-1	308	33	170	43	126	20
臨床検査	4	-1	712	-40	246	-3	201	-59
診療放射線	4	0	1,106	22	379	30	241	-30
はり・きゅう・あんま	20	-1	3,054	-117	1,112	-4	1,042	15
柔道整復	18	-2	2,506	-72	938	45	754	-27
理学・作業療法	14	0	3,139	54	991	48	740	-23
その他	11	0	1,839	10	860	-2	755	45
医療関係計	131	-7	22,944	-129	8,406	294	7,139	-81
栄養	10	0	2,348	69	1,034	-10	872	-158
調理	30	-2	4,563	3	2,700	-69	2,464	-44
理容	5	-1	196	-25	106	-9	91	-29
美容	37	1	9,730	-85	5,198	-49	4,292	-133
製菓・製パン	20	-1	2,247	-119	1,312	-174	1,234	-171
その他	9	1	934	368	532	221	344	88
衛生関係計	111	-2	20,018	211	10,882	-90	9,297	-447
保育士養成	21	-1	2,487	-204	1,188	-59	1,129	5
教員養成	8	0	1,402	-26	655	-10	589	-36
介護福祉	21	1	1,144	79	607	-3	405	27
社会福祉	7	1	682	1	472	29	447	0
その他	4	-1	146	-269	95	-200	52	-29
教育・社会福祉関係計	61	0	5,861	-419	3,017	-243	2,622	-33
商業	12	2	1,327	309	764	34	294	39
経理・簿記	12	0	2,074	-223	1,132	-95	930	-23
秘書	1	0	16	1	9	-1	5	-5
経営	11	1	2,403	88	1,352	115	1,017	137
旅行	18	2	5,520	82	2,827	-70	2,276	-194
情報	18	-1	2,422	-137	1,364	-75	1,046	108
ビジネス	16	2	2,222	165	1,217	72	920	-76
その他	10	-2	1,580	29	879	-8	699	61
商業実務関係計	98	4	17,564	314	9,544	-28	7,187	47
家政	3	0	0	0	0	0	0	-2
和洋裁	29	-2	7,087	490	3,624	53	2,479	-57
料理	1	0	218	3	126	13	100	-34
編物・手芸	1	0	2	-6	2	-2	4	1
ファッションビジネス	8	-1	486	-51	287	-30	167	-69
その他	1	0	6	-8	4	-5	8	3
服飾・家政関係計	43	-3	7,799	428	4,043	29	2,758	-158
音楽	17	1	7,203	138	3,861	190	2,824	58
美術	15	-1	2,577	167	1,514	170	1,389	293
デザイン	23	-1	8,051	483	3,770	72	2,682	111
茶華道	1	0	74	3	32	-10	26	-1
外国語	16	0	7,243	-335	3,830	-532	3,160	154
演劇・映画	16	1	3,599	171	1,935	156	1,455	-104
写真	2	0	501	6	254	-8	173	20
通訳・ガイド	6	0	2,399	160	1,289	51	981	-18
受験・補習	15	0	6,729	-1,066	6,728	-1,067	7,667	-531
動物	11	0	3,284	282	1,674	60	1,180	-47
法律行政	9	1	2,276	213	1,364	64	1,010	-61
スポーツ	13	0	2,637	74	1,309	26	995	-72
その他	31	-3	4,285	-710	2,051	-486	2,202	-232
文化・教養関係計	175	-2	50,858	-414	29,611	-1,314	25,744	-430
総計	680	-9	149,579	1,185	76,838	-1,050	62,872	-722

(注)開設校のない学科系統を除く。



# 都内専門学校の現状

## ■ 学生数は3年連続、入学者数は4年連続の増加

東京都内に開設する専門学校は359校。うち私立学校は350校で、全体の97.5%を占める。国立は1校、公立は8校。もちろん学科数、学生数、入学者数も私立が圧倒的で、順に99.4%、98.6%、99.0%の占有率だ。累計学校数612校を分野別に見ると、文化・教養の150校が最も多く、占有率は24.5%。医療が123校（20.1%）で、この2分野が2割を超えている。

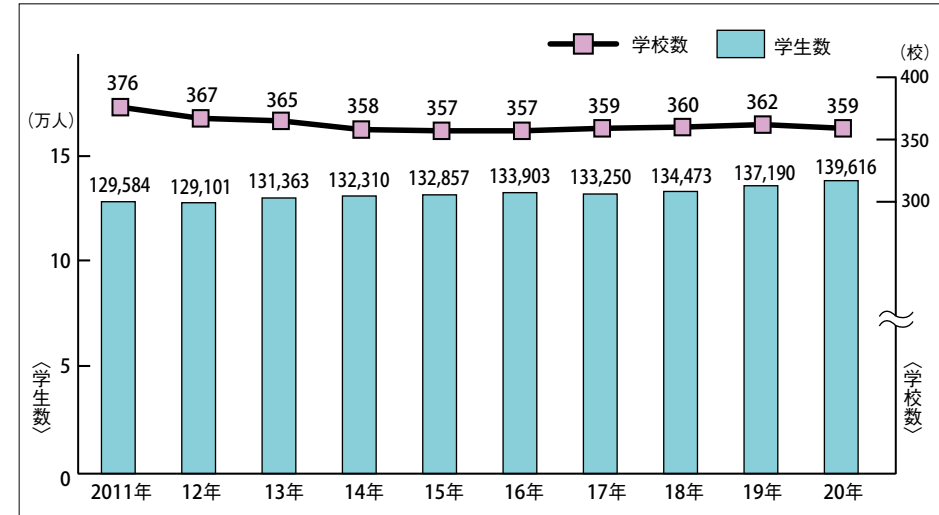
学生数は3年連続で増加して139,616人。前年より1.8ポイントの上昇である。分野別に見ると文化・教養関係の42,909人（30.7%）が圧倒的多数で、以下、2万人規模の工業関係24,125人（17.3%）、医療関係22,403人（16.0%）が続く。文化・教養と工業はいずれも前年より増加したが、特に工業は5.1ポイント上昇して占有率を17.3%に拡大した。

入学者数68,515人は4年連続の増加。今年度は152人の微増で、この3年で伸び率が初めて鈍化したのが気になる。入学者のうち大学等卒業者の数は、全国統計では6年連続で減少したが、都内専門学校では2年連続で上昇している。合計で7人の微増ながら、学種別では大学と高等専門学校が増加。なかでも私立大学からは48人増え、国立高等専門学校からも13人入学しているのが今年度の目立った動きである。

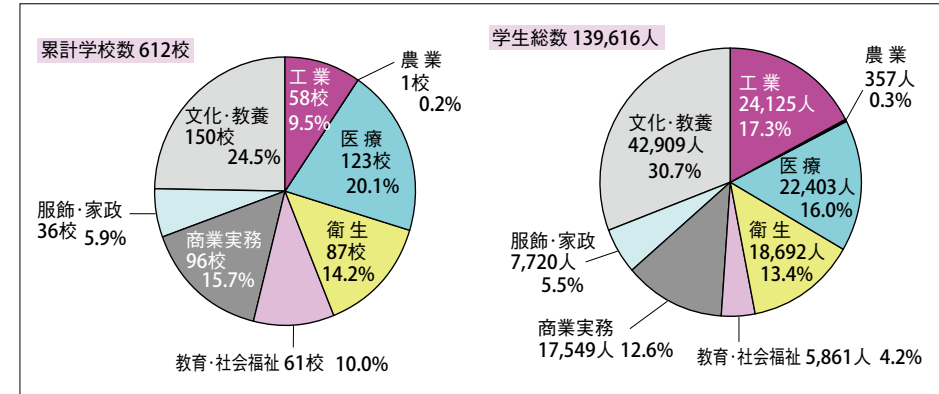
## ■ 職業実践専門課程は工業と文化・教養で過半数

都内の職業実践専門課程は2020年度まで141校523学科が認定されており、全国で最も多い。設置校数では全国1,037校の13.6%、学科数では3,098学科の16.9%を占めている。都内における分野別の構成比を見ると工業が137学科（26.2%）、文化・教養が131学科（25.0%）と高く、この2分野で51.2%と過半数に達する。なお認定数は基本的に経年増加するが、医療のみ前年から8学科減少したのは認定取消しを受けたものと見られる。制度施行から7年が経ち、文部科学省では引き続き認定数増加を目指す一方、教育課程編成委員会に職業教育マネジメントの観点から実証研究を試みるなど、職業実践専門課程の「中身」のさらなる充実に向けた検討・議論が進んでいる。量的拡大から質の向上にシフトしつつあると言える。

都内専門学校の学校数・学生数の推移



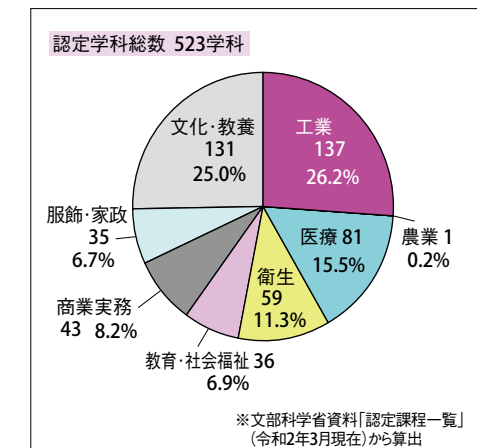
都内専門学校の分野別学校数・学生数 (2020年度)



都内専門学校の学校数・学生数 (2020年度)

	国立	公立	私立	計
学校数	1	8	350	359
学科数	1	8	1,455	1,464
学生数	33	1,941	137,642	139,616
入学者数	20	643	67,852	68,515
	0.03%	0.9%	99.0%	100%

都内専門学校の職業実践専門課程分野別学科数 (2020年度)



都内専門学校入学者のうち大学等卒業者数 (2020年度)

	国立出身	公立出身	私立出身	計
大学	5	65	4,199	4,269
短期大学	2	21	588	611
高等専門学校	13	1	37	51
計	20	87	4,824	4,931

※文部科学省資料「認定課程一覧」(令和2年3月現在)から算出

# 都内専門学校の学生数の推移(工業／農業)

都内専門学校の学生数の推移(工業／農業)

## 工業関係／「情報処理」が躍進、5千人規模に

学生数はこの10年右肩上がり。今年度で11年連続のプラス成長となり、24,125人を記録した。伸び率は前年の6.7ポイント増から5.1ポイント増とやや鈍化したものの、全分野に占める構成比は16.7%から17.3%に拡大した。

内訳では全9系統中6系統が前年より増加。この6系統を学生数の多い順に並べると、「その他」9,973人、「情報処理」5,350人、「土木・建築」4,696人となり、この3系統が千人規模。以下「電気・電子」「機械」「測量」と続く。なかでも「情報処理」は、全国統計も11.4ポイント増と最も伸びが著しいが、都内はさらに高く15.4ポイント増。この10年で初めて5千人台を突破した。「情報処理」に関連する職業分野は多岐にわたるが、特に若者に人気の高いゲーム分野でもAIを用いた「チャットボット」や「条件分岐」といった情報処理技術が活用されていることから、この分野も情報処理を学んだ学生のニーズは高い。ゲームやCG制作自体の学びはおもに「その他」に含まれるが、「その他」の学生数も年々上昇し、今年度は1万人台に迫っていることから、今後も「その他」と「情報処理」は軌を一にして成長すると推測できよう。学生数3位の「土木・建築」も11年連続して増加。今年度はコロナ禍により建設現場が一時ストップ、公共工事も延期になるなど業界は打撃を受けたが、新卒採用ニーズは依然として高い。これはかつての建設不況による採用の手控えが、いま深刻な問題となった「中堅技術者の空洞化」を招いた反省も背景にあると見られる。「土木・建設」に関連する「測量」も5人の微増ながら4年ぶりに好転した。

マイナス成長の3系統のうち、「自動車整備」は減少基調が続いているが、それでも学生数2,641人は関係内で4位の規模。業界におけるコロナ禍の影響としては感染リスクの面から、不特定多数と空間を共にする公共交通機関よりも車による移動手段が見直され、事実、自動車の生産台数は大幅に回復している。このことが新たな追い風をもたらす好材料になるか、今後の推移が注目される。

## 農業関係／「その他」の1校に357人が学ぶ

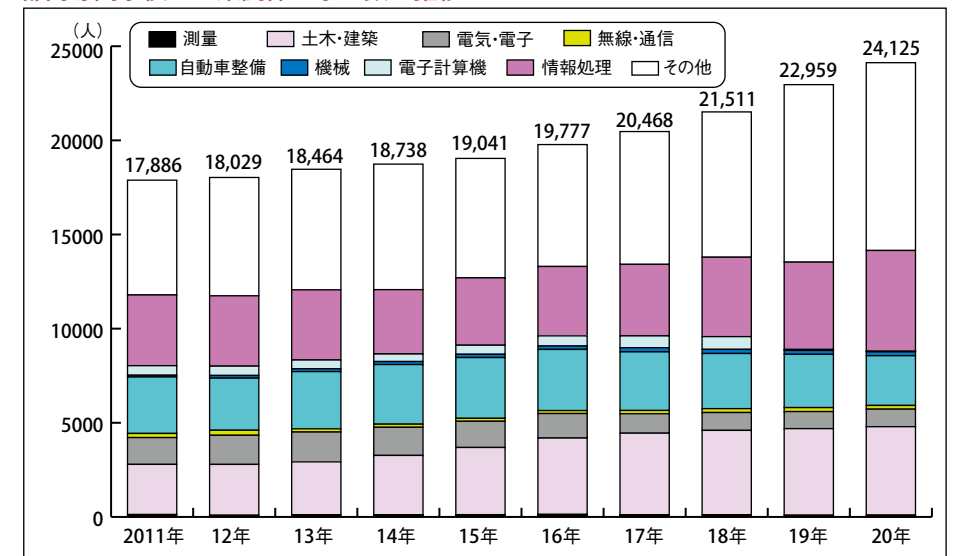
東京都の農業関係は「その他(バイオテクノロジー)」の1系統で1校のみである。今年度の学生数は357人で、前年より28人増加している。

都内専門学校の学科系統別学生数(工業／農業)

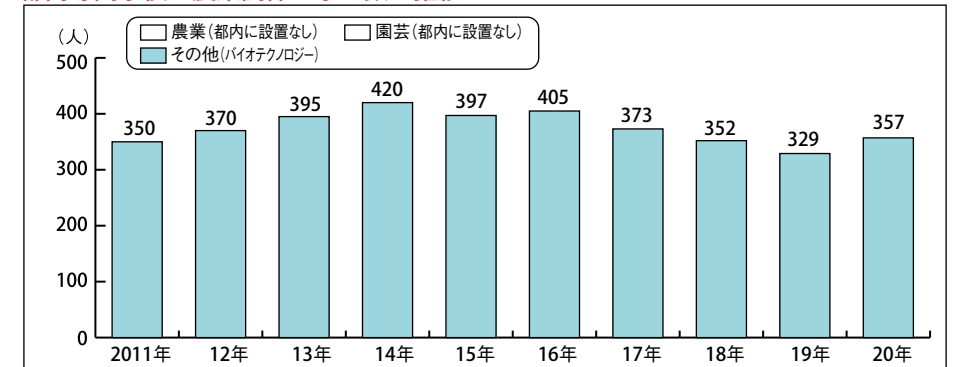
工業関係	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
測量	128	90	105	120	122	136	117	113	92	97
土木・建築	2,664	2,700	2,820	3,147	3,567	4,054	4,331	4,484	4,598	4,696
電気・電子	1,423	1,546	1,585	1,495	1,391	1,302	1,034	949	906	931
無線・通信	220	268	172	165	157	157	173	206	212	197
自動車整備	2,997	2,768	3,036	3,166	3,228	3,247	3,113	2,928	2,827	2,641
機械	94	142	151	161	174	183	220	220	206	209
電子計算機	508	495	466	401	481	538	628	676	54	31
情報処理	3,756	3,736	3,727	3,417	3,579	3,685	3,799	4,218	4,638	5,350
その他	6,096	6,284	6,402	6,666	6,342	6,475	7,053	7,717	9,426	9,973
計	17,886	18,029	18,464	18,738	19,041	19,777	20,468	21,511	22,959	24,125

農業関係	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
農業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
園芸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	350	370	395	420	397	405	373	352	329	357
計	350	370	395	420	397	405	373	352	329	357

都内専門学校の工業関係の学生数の推移



都内専門学校の農業関係の学生数の推移



# 都内専門学校の学生数の推移(医療／衛生)

都内専門学校の子生数の推移(医療／衛生)

## ■ 医療関係／「歯科衛生」「理学療法・作業療法」が好調

学生数は22,403人で、都内の専門学校生の16.0%の割合である。

医療関係には9系統があり、最も学生数が多いのは「看護」の6,608人。構成比は29.5%とほぼ3割を占めている。今年度は2年ぶりに減少したが、実数で47人減は学生規模からするとわずかと言える。コロナ禍により今年度は、かつてないほど世間が医療従事者に注目したが、そのなかで特に看護師の業務が「療養上の世話」「診療の補助」であると認識されたこと、また逼迫する医療現場の運営を看護師が中心に担うと周知されたことは大きい。養成校では臨床実習先の確保が新たな課題になるなど、看護師をめぐる環境の変化が、次年度以降の学生数推移にどう影響するか注目される。

「看護」に次いで多いのは「歯科衛生」(3,145人)、「理学療法・作業療法」(3,139人)、「はりきゅう・あんまマッサージ指圧」(3,040人)の順でいずれも3千人規模。このうち、今年度は「歯科衛生」と「理学療法・作業療法」が増加した。

## ■ 衛生関係／「その他」の躍進により7年ぶりに増加

学生数は7年ぶりに好転し、前年から212人増えて18,692人に。全分野に占める構成比は13.4%で、8分野中4位の規模である。

衛生関係は「栄養」「調理」「製菓・製パン」の食関係と、理美容関係、「その他」の3つに分かれる。食関係3系統の学生数を合計すると8,249人になり、衛生関係の44.1%を占める。そのうち最も学生が多いのは「調理」の3,752人で2年連続して増加した。飲食業はコロナ禍による打撃が特に深刻な業界と言えるが、学生数には今のところ大きな影響は見られない。

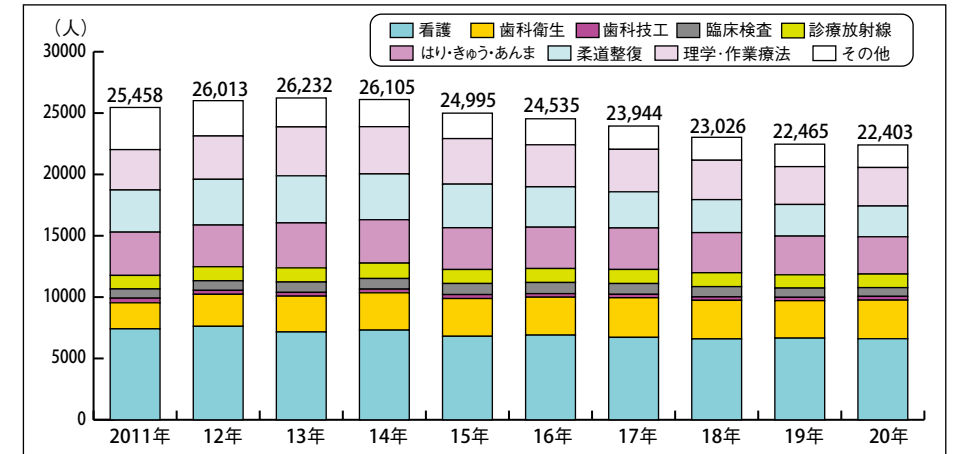
一方、「理容」「美容」を合計した理美容関係の占有率は50.9%。関係内で最も多い「美容」は9,375人(50.2%)で、「美容」だけでも過半数だ。今年度は「理容」「美容」とも減少したが、理美容業界は慢性的な人手不足が続いており、就職状況はコロナ禍の影響も見られず極めて好調だ。日本の専門学校で学び、美容師免許を取得した外国人留学生の国内就労についても門戸が開かれつつあるなか、「入口」の学生募集が課題と言える。「その他」は368人プラスと大幅に増え、一気に934人に。10年前の2.5倍以上になっている。

都内専門学校の学科系統別学生数(医療／衛生)

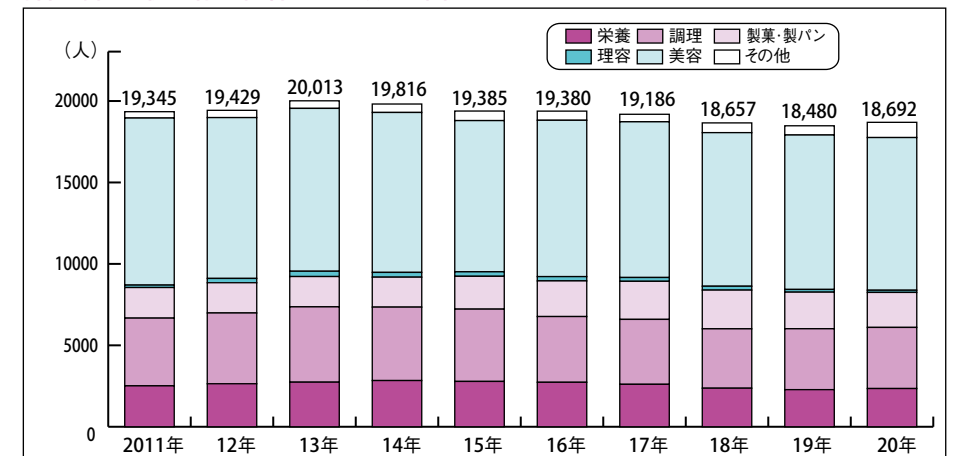
医療関係	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
看護	7,412	7,618	7,158	7,309	6,808	6,902	6,719	6,592	6,655	6,608
歯科衛生	2,125	2,610	2,921	3,042	3,075	3,090	3,228	3,144	3,054	3,145
歯科技工	376	322	307	300	325	292	279	281	275	308
臨床検査	752	782	844	866	902	908	882	838	752	712
診療放射線	1,103	1,145	1,153	1,254	1,141	1,139	1,145	1,131	1,084	1,106
はりきゅう・あんま	3,528	3,398	3,665	3,536	3,401	3,369	3,383	3,272	3,153	3,040
柔道整復	3,436	3,727	3,839	3,733	3,556	3,288	2,948	2,688	2,578	2,506
理学・作業療法	3,290	3,531	3,985	3,851	3,712	3,429	3,462	3,210	3,085	3,139
その他	3,436	2,880	2,360	2,214	2,075	2,118	1,898	1,870	1,829	1,839
計	25,458	26,013	26,232	26,105	24,995	24,535	23,944	23,026	22,465	22,403

衛生関係	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
栄養	2,512	2,642	2,738	2,838	2,784	2,731	2,607	2,368	2,279	2,348
調理	4,159	4,345	4,625	4,508	4,439	4,037	3,986	3,646	3,740	3,752
製菓・製パン	1,878	1,857	1,861	1,839	2,016	2,188	2,338	2,377	2,246	2,149
理容	150	264	325	293	276	264	235	238	167	134
美容	10,257	9,875	9,999	9,820	9,284	9,598	9,559	9,430	9,482	9,375
その他	389	446	465	518	586	562	461	598	566	934
計	19,345	19,429	20,013	19,816	19,385	19,380	19,186	18,657	18,480	18,692

都内専門学校の医療関係の学生数の推移



都内専門学校の衛生関係の学生数の推移



# 都内専門学校の学生数の推移(教育・社会福祉/商業実務)

都内専門学校の学生数の推移(教育・社会福祉/商業実務)

## ■ 教育・社会福祉関係／教育系の学生が3人に2人の割合

学生数は5,861人。全分野に占める割合は4.2%である。

教育・社会福祉関係は5系統あり、学生数が多い順に並べると「保育士養成」2,487人、「教員養成」1,402人、「介護福祉」1,144人、「社会福祉」682人、「その他」146人となる。教育系の「保育士養成」と「教員養成」の合計は3,889人になり、構成比は66.4%。「教員養成」はほぼ幼稚園教諭なので、3人に2人が幼児保育・教育者を狙っていることになる。

社会福祉系の合計は1,826人で、関係内の31.2%を占める。今年度は「介護福祉」「社会福祉」とともに増加したが、なかでも「介護福祉」は7.4ポイントの上昇。増加要因のひとつは2017年に外国人の在留資格「介護」が創設され、日本の養成施設を卒業した留学生の国内就労が可能になったことが挙げられるが、コロナ禍により専門学校に入学する留学生の主な経由先である日本語学校の入学者が激減していることから、次年度以降の推移が気になるところである。「その他」は前年の大幅増から一転、146人に減少した。

## ■ 商業実務関係／「経営」の学生数が5年連続の増加

学生数は17,549人。全分野に占める構成比は12.6%と5番手の規模だが、7年連続の増加と好調が続いている。今年度は全8系統中、「旅行」「経営」「ビジネス」「その他」「商業」「秘書」の6系統が前年より増加した。

学生数のトップ3は「旅行」(5,520人)、「情報」(2,422人)、「経営」(2,403人)。「旅行」は2位「情報」の2倍以上の規模を誇り、関係内の占有率は3割を超えている。今年度は82人と微増ながら3年ぶりに増加した。3位の「経営」は5年連続の増加で、今回反転した「情報」との差をわずか19人に縮めた。

4位以下で目立つ動きは、昨年5位の「ビジネス」が8.0ポイント上昇して「経理・簿記」と逆転したこと、7位の「商業」が実数(309人)・伸び率(30.4ポイント)とも系統内の最大値を記録して前年の1千人超えからさらに伸びたことである。ただ、「旅行」の学生は観光系の就職が多く、「経営」「ビジネス」「商業」は外国人留学生が多い系統である。いずれも今年度は増加したが、コロナ禍の影響を受けやすい系統と言えることから今後の推移は不透明だ。

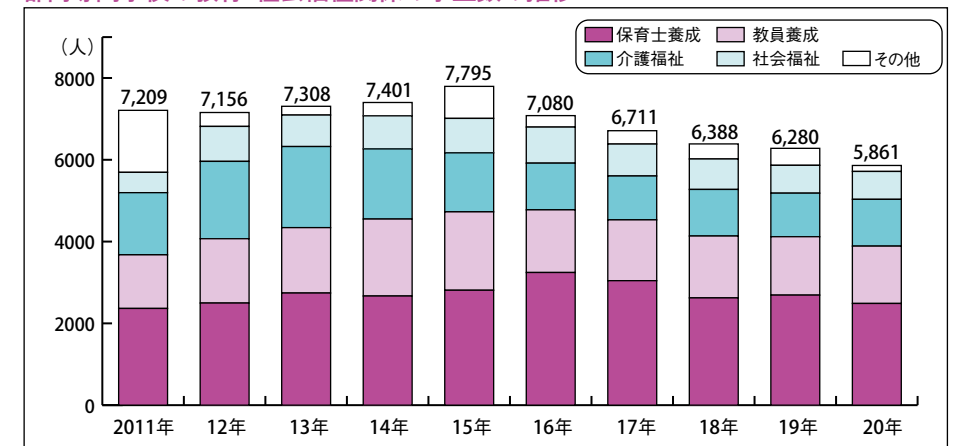
都内専門学校の学科系統別学生数(教育・社会福祉/商業実務)

教育・社会福祉関係	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
保育士養成	2,365	2,497	2,742	2,669	2,810	3,244	3,044	2,623	2,691	2,487
教員養成	1,311	1,573	1,599	1,882	1,917	1,532	1,487	1,513	1,428	1,402
介護福祉	1,520	1,891	1,983	1,715	1,443	1,142	1,073	1,139	1,065	1,144
社会福祉	497	855	770	809	842	882	781	745	681	682
その他	1,516	340	214	326	783	280	326	368	415	146
計	7,209	7,156	7,308	7,401	7,795	7,080	6,711	6,388	6,280	5,861

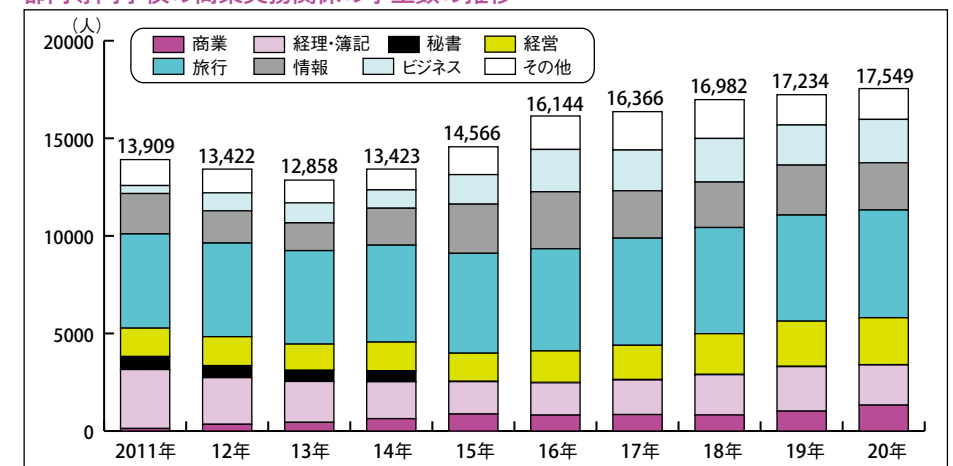
  

商業実務関係	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
商業	131	346	445	635	872	814	844	824	1,018	1,327
経理・簿記	3,020	2,389	2,094	1,890	1,657	1,657	1,772	2,062	2,281	2,059
秘書	668	617	573	563	18	18	24	16	15	16
経営	1,452	1,481	1,342	1,468	1,441	1,615	1,753	2,086	2,315	2,403
旅行	4,827	4,799	4,791	4,967	5,118	5,237	5,490	5,440	5,438	5,520
情報	2,072	1,652	1,420	1,894	2,521	2,919	2,428	2,332	2,559	2,422
ビジネス	410	923	1,029	941	1,513	2,169	2,090	2,233	2,057	2,222
その他	1,329	1,215	1,164	1,065	1,426	1,715	1,965	1,989	1,551	1,580
計	13,909	13,422	12,858	13,423	14,566	16,144	16,366	16,982	17,234	17,549

都内専門学校の教育・社会福祉関係の学生数の推移



都内専門学校の商業実務関係の学生数の推移





# 都内専門学校の学生数の推移(服飾・家政/文化・教養)

都内専門学校の学生数の推移(服飾・家政/文化・教養)

## ■ 服飾・家政関係 / 「和洋裁」の学生が9割を超える

学生数は4年連続のプラスと好調。今年度は448人増の7,720人となり、全分野に占める構成比は5.3%から5.5%に伸長した。

都内の専門学校は「和洋裁」「ファッションビジネス」「料理」「その他」の4系統で構成されている。最も学生が多いのは「和洋裁」の7,008人。3年連続して増加し、この10年で最高値の7,008人を記録した。関係内の構成比も90.8%とついに9割を越えた。次いで多いのが「ファッションビジネス」の486人で、「和洋裁」との合計は97.1%に達する。

## ■ 文化・教養関係 / 「外国語」が首位陥落

文化・教養関係は都内専門学校生が最も多い分野で、全分野中の30.7%を占める。全国統計の21.5%(2位)より9.2ポイントも高く、東京独特の傾向と言える。最近の推移も好調で、3年連続して増加し42,909人になった。

内訳を見ると全11系統中9系統がプラス成長。全系統のなかで学生数が5千人以上の系統は「デザイン」8,018人、「外国語」7,243人、「音楽」6,989人の3つである。このうち「外国語」は、前年まで11年連続増と極めて好調だったが、今年は12年ぶりに335人(4.4ポイント)減少した。これにより2018年から続いた系統内1位を「デザイン」に譲ることになった。もともと全国統計の系統内順位(「デザイン」「法律・行政」「動物」が上位、「外国語」は6位)と比べて東京の「外国語」は学生数が多いが、それはインバウンドビジネスの隆盛や外国人留学生の増加、グローバル化に伴う語学熱の高まりなどの影響が、首都東京では顕著に現れるからだろう。そのぶん変化も受けやすく、今年度の「外国語」は全国・東京とも前年比マイナスだが、全国の1.2ポイント減に対し、東京は4.4ポイント減と下降幅が大きい。コロナ禍の影響が今後さらに現れると予測できるなかで、「外国語」の推移が注目される。

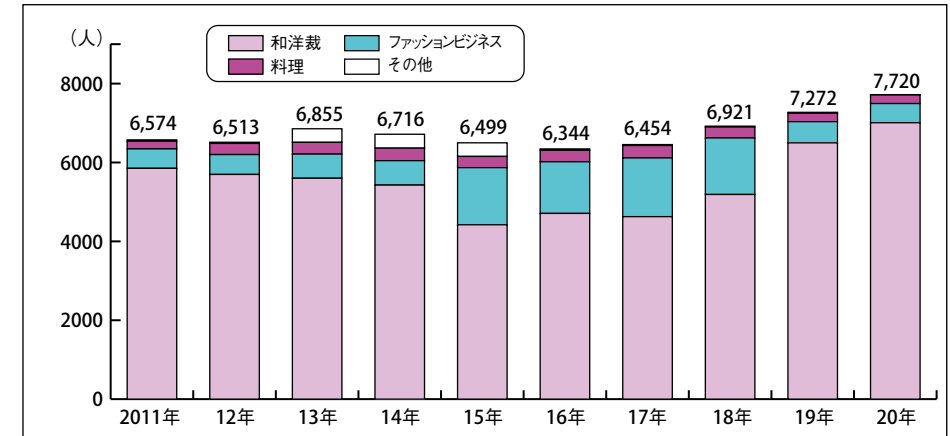
「外国語」以外に前年よりダウンしたのは「その他」で4,553人から3,890人に。「その他」を除く学生数4位以下は、「演劇・映画」「動物」「スポーツ」「通訳・ガイド」「法律・行政」「美術」「写真」の順で、501人の「写真」以外はすべて2千人から3千人の規模である。

都内専門学校の学科系統別学生数(服飾・家政/文化・教養)

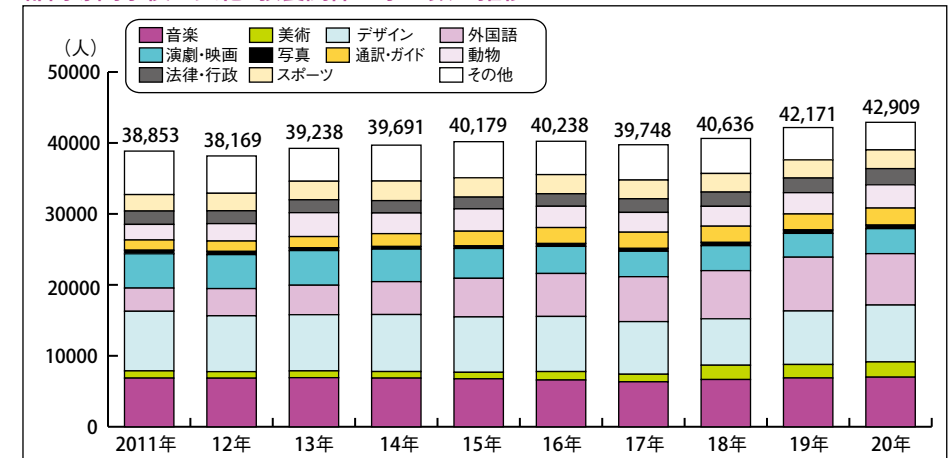
服飾・家政関係	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
和洋裁	5,852	5,697	5,601	5,427	4,421	4,709	4,627	5,189	6,498	7,008
ファッションビジネス	493	504	612	619	1,448	1,309	1,488	1,433	537	486
料理	195	283	298	318	285	292	316	278	215	218
その他	34	29	344	352	345	34	23	21	22	8
計	6,574	6,513	6,855	6,716	6,499	6,344	6,454	6,921	7,272	7,720

文化・教養関係	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
音楽	6,857	6,845	6,921	6,856	6,758	6,590	6,334	6,661	6,877	6,989
美術	1,018	924	955	928	916	1,192	1,068	2,012	1,902	2,149
デザイン	8,401	7,871	7,919	8,035	7,807	7,767	7,418	6,549	7,540	8,018
外国語	3,270	3,834	4,154	4,635	5,442	6,056	6,330	6,782	7,578	7,243
演劇・映画	4,833	4,787	4,881	4,583	4,205	3,821	3,583	3,518	3,359	3,523
写真	504	453	410	374	373	404	407	462	495	501
通訳・ガイド	1,441	1,461	1,566	1,808	2,061	2,246	2,281	2,284	2,239	2,399
動物	2,197	2,455	3,368	2,911	3,150	3,001	2,792	2,800	3,002	3,284
法律・行政	1,883	1,810	1,817	1,742	1,654	1,761	1,924	2,009	2,063	2,276
スポーツ	2,321	2,467	2,614	2,761	2,727	2,701	2,638	2,622	2,563	2,637
その他	6,128	5,262	4,633	5,058	5,086	4,699	4,973	4,937	4,553	3,890
計	38,853	38,169	39,238	39,691	40,179	40,238	39,748	40,636	42,171	42,909

都内専門学校の服飾・家政関係の学生数の推移



都内専門学校の文化・教養関係の学生数の推移



# 都内高等専修学校の現状

都内高等専修学校の現状

## 41校に2,701人が学ぶ

東京都内に開設する高等専修学校（専修学校高等課程）はすべて私立である。学校数は2校増加して41校。生徒数は2,701人で、1校あたり65.9人の生徒が在籍していることになる。高等専修学校の特色のひとつはきめ細やかな指導が行いやすい少人数教育にあるが、全国平均の1校あたり84.3人と比較すると、特に都内はコンパクト化が進んでいるようだ。

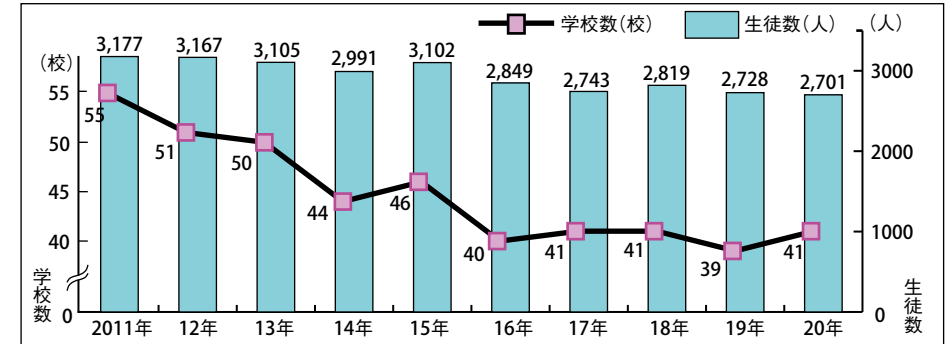
## 衛生、文化・教養、医療分野がメイン

東京には2020年現在、工業、医療、衛生、服飾・家政、文化・教養の5分野が開校している。生徒数が最も多いのは衛生分野の1,286人で、全生徒数の47.6%と半数近くに達している。続いて文化・教養の767人、医療の541人が多く、これら上位3関係の合計は96.0%（2,594人）に達する。今年度の傾向としては昨年に引き続き文化・教養が増加したことだが、いずれにせよこの3つが永らく高等専修学校の主力分野であることに変わりない。

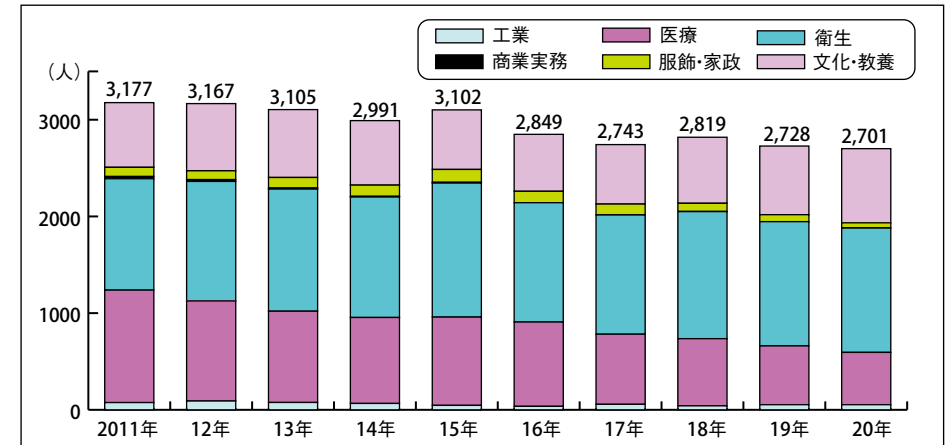
衛生分野の設置科には調理師科、理容科、美容科、製菓衛生師科、食物科などがあり、国家資格が必要な専門職が多いことが特色だ。また医療分野のほとんどは准看護師養成の学科で、国が正看護師を推進していることから生徒数は緩やかな減少傾向にあるが、それでも毎年一定数を確保しており根強いニーズがうかがえる。中学新卒の場合、早くから「この職業に就きたい」という目的意識の強い生徒が特に両分野を選ぶと思われる。その一方で生徒の中には高校中退者や社会人の学び直しも含まれていると見られ、早期の職業スキル獲得から再チャレンジ、ジョブチェンジまで高等専修学校の幅広い役割がわかる部分である。文化・教養は美術科やデザイン科、芸術科、演劇・音楽科、スポーツ科などと幅広く、普通高校より「興味のあることを深く学びたい」という生徒の大きな選択肢になっている。

若者の選択肢を広げ可能性を伸ばすために、教育行政においても高等専修学校の充実のための施策に力を入れており、学校の質保証・向上のための情報公開の取り組みや、学年の縛りのない単位制学科の制度化などが実現している。後期中等教育機関の中で存在感を放つ高等専修学校の行方に注目したい。

都内高等専修学校の学校数・生徒数の推移



都内高等専修学校の生徒数の推移(分野別)



都内高等専修学校の生徒数(分野・系統別)

	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
工業計	75	91	76	66	46	36	57	41	53	53
電気・電子	24	32	25	31	22	17	28	0	0	0
情報処理	0	0	0	35	24	19	29	41	53	53
その他	51	59	51	0	0	0	0	0	0	0
医療計	1,163	1,035	944	889	913	872	725	695	608	541
看護	0	119	120	0	0	0	0	0	0	0
准看護	1,140	891	808	872	894	846	703	677	590	527
はり・きゅう・あんま	23	25	16	17	19	26	22	18	18	14
衛生計	1,152	1,236	1,263	1,246	1,386	1,234	1,233	1,314	1,285	1,286
調理	691	787	850	887	903	842	847	874	820	811
理容	82	82	69	34	144	63	58	57	54	62
美容	202	181	176	176	173	167	175	233	291	315
製菓・製パン	177	186	168	149	166	162	153	150	120	98
商業実務計	23	19	11	7	8	0	0	1	0	0
情報	17	13	6	5	0	0	0	0	0	0
その他	6	6	5	2	8	0	0	1	0	0
服飾・家政計	95	91	109	116	133	118	113	85	72	54
家政	52	55	2	4	4	5	2	4	0	0
和洋裁	43	36	107	112	129	113	111	81	72	54
文化・教養計	669	695	702	667	616	589	615	683	710	767
音楽	0	0	0	4	22	56	95	152	188	214
美術	4	3	2	2	15	38	49	58	50	54
デザイン	0	0	0	0	0	1	6	18	28	33
演劇・映画	213	237	247	9	0	0	9	41	69	76
その他	452	455	453	652	579	494	456	414	375	390
総計	3,177	3,167	3,105	2,991	3,102	2,849	2,743	2,819	2,728	2,701

# 都内各種学校の現状

都内各種学校の現状

## ■ 157 校に 22,912 名が学ぶ

2020年現在、東京都内に開設する各種学校は157校・284課程。学校数が1校、課程が7つ増加した。生徒数は22,912名で、前年から3,452人の激減と今年度は大きな動きが見られた。これにより1校あたりの生徒数も169人から146人に減少した。なお、他県では各種学校として認可されることもある自動車学校(教習所)は、東京都では管轄外となっている。

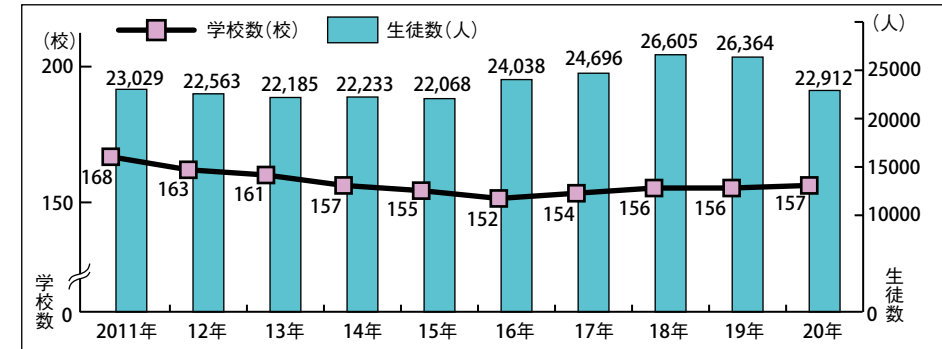
## ■ 日本語学校を含む文化・教養の「その他」が激減

分野別の在籍者が最も多いのは「外国人学校」で15,240人。前年まで6年連続の増加だったが、今年度は340人減少した。それでも全分野の占有率は66.5%になる。今年度は全体の生徒数が大幅に減ったことにより6割を超えた。「外国人学校」は各種学校のみにある課程で、外国籍の児童・生徒を対象とするインターナショナルスクールなどを指しており、在留外国人数の増加傾向とほぼ比例する形で増えてきたが、ここでもコロナ禍による影響が現れ始めたと言える。

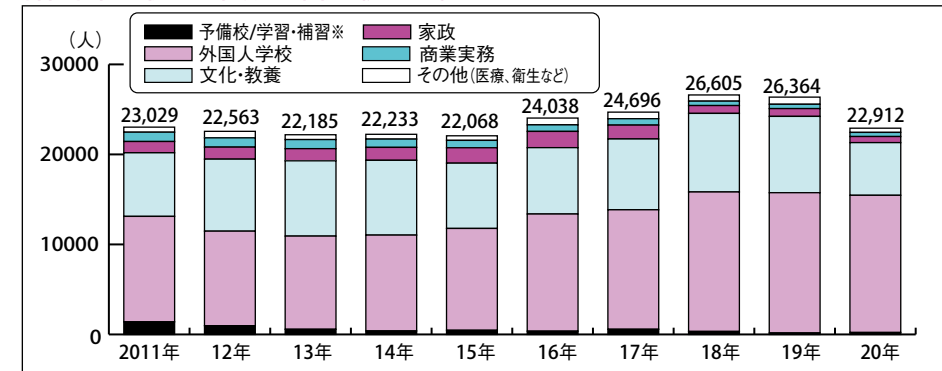
「外国人学校」に次いで多いのは、文化・教養の「その他」で、ここには日本語学校が含まれる。各種学校認可の日本語学校で学ぶのは外国人留学生である。その生徒数は前年から減少していたが、今年度は2,267人減、率にして30.1ポイントもダウンして7,533人から5,266人になった。周知の通り、日本語学校の今年度の入学者は、コロナ禍による来日制限で前半はほぼストップ状態。10月から徐々に解除されたものの、例年通りの回復にはほど遠い状態である。今年度、都内各種学校の生徒数が大幅に減少したのも、日本語学校の窮状が大きく反映しており、コロナ禍の収束がまだ不透明な以上、今後も懸念材料となるといえる。

他に生徒数が多いのは、家政関係の「料理」678人、商業実務関係(珠算、経理・簿記)の458人、文化・教養関係の「デザイン」246人、「学習・補習」218人、文化・教養関係の「音楽」217人、医療関係の「はり・きゅう・あんま」186人。全19系統中16系統が減少し、増えたのは「学習・補習」の52人増、医療関係の「その他」3人増である。

都内各種学校の学校数・生徒数の推移



都内各種学校の生徒数の推移(分野別)



都内各種学校の生徒数(分野別)

	2011年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
予備校/学習・補習※	1,402	973	574	391	462	365	575	334	166	218
外国人学校	11,714	10,500	10,351	10,645	11,314	13,014	13,273	15,493	15,580	15,240
文化・教養	7,063	8,000	8,362	8,309	7,252	7,371	7,867	8,729	8,478	5,851
家政	1,255	1,337	1,352	1,435	1,712	1,805	1,541	872	866	678
商業実務	1,034	1,032	1,010	921	820	728	710	489	481	458
その他	561	721	536	532	508	755	730	688	793	467
計	23,029	22,563	22,185	22,233	22,068	24,038	24,696	26,605	26,364	22,912

都内各種学校の学科系統別生徒数(2020年度)

	課程数	前年増減	生徒数	前年増減	
工業関係	1	0	32	-7	
農業関係	2	1	60	-47	
医療関係	看護	1	-1	118	-4
	はり・きゅう・あんま	2	0	186	-12
	その他	2	0	71	3
衛生関係	1	0	0	0	
商業実務関係(珠算、経理・簿記)	9	0	458	-23	
家政関係	和洋裁	0	-2	0	-27
	料理	15	-2	678	-161
文化・教養関係	音楽	4	0	217	-5
	美術	3	0	57	-6
	デザイン	2	0	246	-64
	外国語	3	0	30	-216
	演劇・映画	2	0	2	-3
	スポーツ	3	2	33	-66
	その他(日本語学校など)	113	10	5,266	-2,267
各種学校のみにある課程	学習・補習	5	2	218	52
	外国人学校	116	0	15,240	-340
	その他	0	-3	0	-259

※2019年～は「学習・補習」のみ

# 都内各種学校の現状(区市別)

## ■ 23 区内に 87%の生徒が在籍

東京都内に 157 校ある各種学校は 23 区 13 市町に設置されている。前年との比較では足立区で 1 校増えた。都内で 10 校以上の各種学校が開設するのは新宿区 (18 校)、北区 (15 校)、渋谷区 (14 校)、世田谷区 (10 校) の 4 地域である。在籍者 22,912 人のうち 19,941 人、87.0%が 23 区内で学んでおり、そのうち新宿区が 4,122 人で最も多い。なお、3 区 5 市町の 10 校は 2020 年度の在籍者がゼロとなっている。

教員総数は 3,644 人で前年より 78 人増加。うち本務教員が 2,144 人、兼務教員が 1,500 人で、本務教員が前年から 52 人プラス、兼務教員が 26 人プラスといずれも増加した。

都内の各種学校数・在籍者数・入学者数・教員数(2020年度)

	学校数	前年度	前年増減	在籍者数	前年度	前年増減	本務教員数	兼務教員数
千代田区	7	7	0	1,027	1,115	-88	54	115
中央区	3	3	0	379	533	-154	48	38
港区	6	6	0	1,026	1,095	-69	154	5
新宿区	18	18	0	4,122	4,990	-868	219	411
文京区	8	8	0	1,029	1,367	-338	56	174
台東区	3	3	0	75	80	-5	4	0
墨田区	5	5	0	398	527	-129	28	27
江東区	5	5	0	1,719	1,860	-141	169	31
品川区	1	1	0	0	0	0	0	0
目黒区	3	3	0	64	63	1	3	11
大田区	6	6	0	431	596	-165	43	42
世田谷区	10	10	0	2,505	2,477	28	273	58
渋谷区	14	14	0	1,442	1,755	-313	178	89
中野区	5	5	0	177	272	-95	10	43
杉並区	2	2	0	43	47	-4	7	3
豊島区	9	9	0	939	1,205	-266	95	78
北区	15	15	0	2,339	2,340	-1	179	26
荒川区	3	3	0	1,064	1,535	-471	143	28
板橋区	4	4	0	337	439	-102	42	19
練馬区	1	1	0	0	0	0	0	0
足立区	7	6	1	296	308	-12	35	54
葛飾区	2	2	0	0	0	0	0	0
江戸川区	2	2	0	529	692	-163	24	72
八王子市	1	1	0	2	11	-9	4	2
立川市	3	3	0	143	178	-35	15	9
武蔵野市	1	1	0	0	0	0	0	0
三鷹市	1	1	0	8	7	1	4	13
青梅市	1	1	0	0	0	0	0	1
調布市	1	1	0	1,531	1,567	-36	202	0
町田市	2	2	0	103	110	-7	16	7
小金井市	1	1	0	0	0	0	1	0
小平市	1	1	0	597	628	-31	75	91
日野市	1	1	0	23	24	-1	1	1
国立市	2	2	0	0	0	0	0	0
東久留米市	2	2	0	564	543	21	62	52
瑞穂町	1	1	0	0	0	0	0	0
計	157	156	1	22,912	26,364	-3,452	2,144	1,500

(注)学校の設置されていない市・郡部・島部を除く。

# 調査研究事業部 「在籍調査」等から

[資料] 公益社団法人東京都専修学校各種学校協会  
調査研究事業部

## 第Ⅲ部

- 在籍調査  
回収率／専門課程 75.8% 高等課程 73.2%  
一般課程 63.6% 各種学校 77.5%
  - 令和 2 年 3 月専門課程卒業生の就職状況調査  
回収率／ 72.6%
  - 専門課程留学生在籍調査  
回収率／ 69.8%
  - 学生・生徒納付金調査  
回収率／専門課程 72.4% 高等課程 53.7%  
一般課程 59.1% 各種学校 71.6%
  - 情報公開・自己点検自己評価・学校関係者評価の実施に関する調査  
回収率／ 64.9%
  - 企業内実習に関する調査  
回収率／ 70.5%
- [以上、令和 2 年 6 月実施]
- 令和 3 年 3 月専門課程就職希望者内定状況調査  
回収率／令和 2 年 10 月末実施 60.4%  
令和 2 年 12 月末実施 61.5%  
令和 3 年 2 月末実施 63.8%